

20 世紀は「ドイツの時代」

(「週刊現代」2016 年 3 月号より)

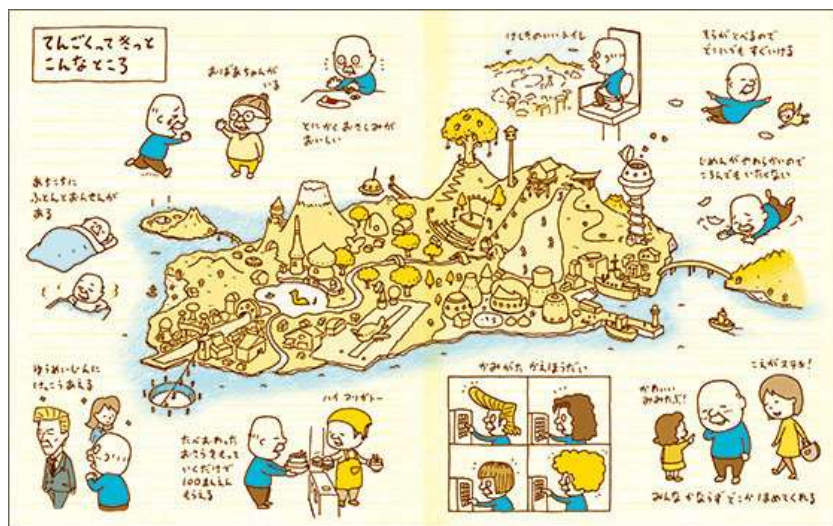
今、日本では大学教育改革が話題になっています。文部科学省は、「文系を軽視しているわけではない」と言いながら、ごく一部の超エリート校だけを文理両方を教える総合大学とし、あとは〇〇大学という名前だけ残して、事実上の専門学校として再編しようと考えているようです。しかし、本当に文系の知識は役に立たず、経済学や工学などの「理系(実学)」といわれる学問だけが重要なのでしょうか。

近現代史の歴史家エリック・ホブズボームは、「20 世紀はドイツの時代だ」と述べています。ドイツは、19 世紀末から後発の工業国として急速に国力を増してきました。20 世紀に入り、この新興国をどうやって取り込むかという問題に直面した世界は、2 度の世界大戦を経て、どうにか軟着陸に至りました。これが 20 世紀最大の事件であり、歴史の主役はドイツだったということです。では、なぜドイツは二度の敗戦を乗り越え勝者になれたのか。見逃せないのが、大学教育です。ドイツの大学教育は、ヨーロッパにおけるライバル・フランスの教育とは対照的でした。フランスでは 19 世紀初頭、ナポレオンによって学校改革が行われ、大学は徹底した実学重視になりました。神学や文学なんて教えるのはやめて、工学・経済学・軍事学などの実学だけにせよ、と。今も、フランスの国立大学のほとんどには神学部がありません。一方、ドイツでは今でも、神学部がないと総合大学を名乗ることができません。では、ドイツがなぜ神学を重視するかというと、

「目に見える世界だけでなく、目に見えない世界を学んでこそ、知はバランスを保てる」

という考え方があるからです。こうした考え方をドイツに定着させたのが、18 世紀から 19 世紀にかけて活躍した、フリードリヒ・シュライエルマッハーという神学者でした。シュライエルマッハーの考え方は、「知は体系知でなければ意味がない」というものです。断片的な知識を山ほど持っても意味は無く、それらの知識が実体験とどう関係しているのか。そうした「体系知」を体得しないと、知は完成しないという考え方です。ベルリン大学の神学部長だったシュライエルマッハーは、実学を教える教授にも教養科目を受け持たせた。そうしてさまざまな学問の交流をはかり、生きた「体系知」を生み出してこそ、初めて大学の存在意義があると彼は考えたわけです。これが 19 世紀ドイツの大学教育をつらぬく方針になったのですが、この教養を中心とした「体系知」を重んじたドイツは 20 世紀の主役となり、21 世紀の今も、ヨーロッパでは「ドイツの世紀」が続いていると言っても過言ではないでしょう。

私たちは普段、無意識のうちに、合理主義や近代的なものの見方にもとづいて行動しています。しかしそれらだけではとらえきれないことが、皆さんの実生活にもあると思います。凄惨で不可解な事件が頻発する時代、目に見えるものだけをとらえてものごとを理解しようとしても、私たち人間には限界があることに気づかねばなりません。



〔解説〕おじいちゃんを亡くしたばかりの男の子。彼はある日、おじいちゃんの部屋で一冊のノートを見つけます。

「このあとどうしちやおう」 そう書かれたノートには、自分が将来死んで来世に行ったらどうなりたいのか、そして残ったみんなにはどうしてほしいのかが、おじいちゃんの絵と文字でいきいきと描かれていました。それを読んで、男の子はと

ってもわくわくしてきました。

そしておじいちゃんと同じように、「このあとどうしちやおう」ノートを作ろうとする男の子。ところが、いざ何を書こうかと考えはじめると、今の自分に必要なのは別のノートだと気づきます。

「自分が死んじゃったあとのことを考えようとすると、今生きているうちにやりたいことがいっぱいあることに気づいた」

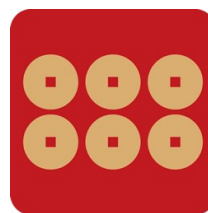
公園で遊ぶ男の子を描いた、最後のページ。

おじいちゃんの「このあとどうしちやおう」ノートを読んだ人にだけ、その光景の中に、男の子を見守るおじいちゃんの姿が見えるのです。

お盆参りの最中に紹介してもらった絵本です。小学校低学年向けですが、大人でも感動させられる素敵な絵本でした。（当寺院の本堂にも置いてあります）

★「このあとどうしちやおう」 作：ヨシタケシンスケ 出版社：ブロンズ新社

〔編集後記〕住職の大好きな大河ドラマ。特に今年の『真田丸』は脚本の妙もあり、とても面白いものに仕上がっています。ところで真田と言えば「六文銭（ろくもんせん）」の家紋。あの六文銭はご存じのように三途の川の渡し賃で、たとえ戦で命を落としても旗印としてそれを持っていれば、極楽浄土へいたる最初の関門であるその川を無事渡れるというわけですね。現代の神戸地区においてこの風習はありませんが、紙にこの六文銭を印刷し棺に入れる地方がまだたくさん残っています。合掌



二祖真教上人七百年御遠忌 平成31(2019)年

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyoin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

